

今年度(4-8月)の活動と現況

平成26年8月30日
十勝川中流部市民協働会議

No	日時	2014年(4-8月)活動内容一覧
1	2014.4.24	土木学会北海道支部「地域活動賞」受賞
2	2014.5.11	当会議 十勝大橋上流左岸樹木移植
3	2014.5.15	当会議 十勝川現地立会 1.途別川合流点工事箇所 2.相生中島下流左岸 3.十勝大橋下流右岸
4	2014.6.7	相生中島上流湿地での中島創出と外来種駆除作業
5	2014.6.12	帯広工業高校2年生 十勝川現地見学
6	2014.6.16	帯広工業高校3年生 十勝川現地見学
7	2014.6.21	帯広農業高校 現地測量作業 十勝大橋上流左岸
8	2014.7.8	当会議 十勝川現地見学会 1.相生中島上流湿地 2.途別川合流点工事箇所 3.十勝中央大橋下流右岸
9	2014.7.25	帯広農業高校 湿地へのヨシ棹設置と十勝大橋上流への移植作業
10	2014.8.9	帯広農業高校 相生上流湿地での魚類調査、樹木や礫での漁礁設置

2014.4.24 土木学会北海道支部「地域活動賞」受賞

当会議が進める、地域住民と行政、市民団体の3者協働による活動が評価され、土木学会北海道支部「地域活動賞」を受賞した。



H260424札幌での授賞式



受賞盾

平成26年5月22日（木）北海道新聞（夕刊）

土木学会の地域活動賞に



昨年7月、市民協働会議とともに十勝川河岸の環境を調査した帯広工業高の生徒たち（同会議提供）

十勝川市民会議

環境に配慮した十勝川の治水工事について市民が考え、提言している「十勝川中流部市民協働会議」（代表・柳川久帯広畜産大教授）から、土木学会道支部（札幌）から2013年度の地域活動賞が贈られた。地元の高校生も交え、市民主体の川づくりの計画の立案、現地調査などに取り組んできたことが評価された。

（原田隆幸）

環境配慮の川づくりに汗

同賞は土木技術などに關して地域に貢献した団体に贈られる。4月下旬に札幌市内で開かれた同支部の総会で、昨年度唯一の対象団体に同会議を選んだ。同会議は帯広開建が進めている、帯広市周辺の十勝川中流部約13キロの治水工事に市民の意見を反映させようと2012年に発足。環境保全に取り組む市民団体や有識者ら約60人で構成し、帯広開建も加わる。区間内の河岸9地域について、樹木を伐採し草原を復元したり、湿地を整備するなど、環境に配慮した川づくりの案を考えるのが主目的。水質や生態系の調査を行い、定期的に市民への報告会も開いている。昨年度からは帯広農業高と帯広工業高の生徒も活動に加わり、同会議の活動を見学し

土木学会道支部の地域活動賞

十勝川市民会議が受賞

中流域の河川づくりを主導

十勝川の保全と川づくりに取り組む、十勝川中流部市民協働会議代表・柳川久帯広畜産大教授が、土木学会北海道支部の今年度の「地域活動賞」に選ばれた。道内では唯一の受賞。帯広開発建設部による十勝川中流部の河川工事に参画、企画立案や水質調査などで、官民学による共同の河川づくり事業に取り組んできたことが評価された。



表彰盾を手に笑顔の藤堂事務局長

同会議は2012年に設立。市民団体、学識経験者、土木、建設業者などの約60人が構成し、河川管理者の帯広開発建設部（開建）も加わる。10年に同開建が十勝川の掘削工事で開いた「ワークショップ（WS）」が前身で、同WS参加者を中心として「数十年の大計」である十勝川中流域の川づくりを考へ、行動している。「計画、実施、検証、行動のサイクル」がモットー。2、3カ月間1回の現地見学会で、工事の進捗（しんちよく）状況を確認する他、自らも水質や生態調査で見守っている。工事による環境負荷軽減と昔からの生態系や植生の再生を目指す。湿地、草地の復元を進め、市民への川づくり報告会も定期的に開き、活動を発信している。

「生活の場と身近な川を守る」という当たり前に思っていたことが評価され、驚きと喜びでいっぱい。今後、次代を担う高校生とも協力し、地域の共通財産の川づくりに知恵を絞る、汗をかきたい」と話している。（原山知寿子）

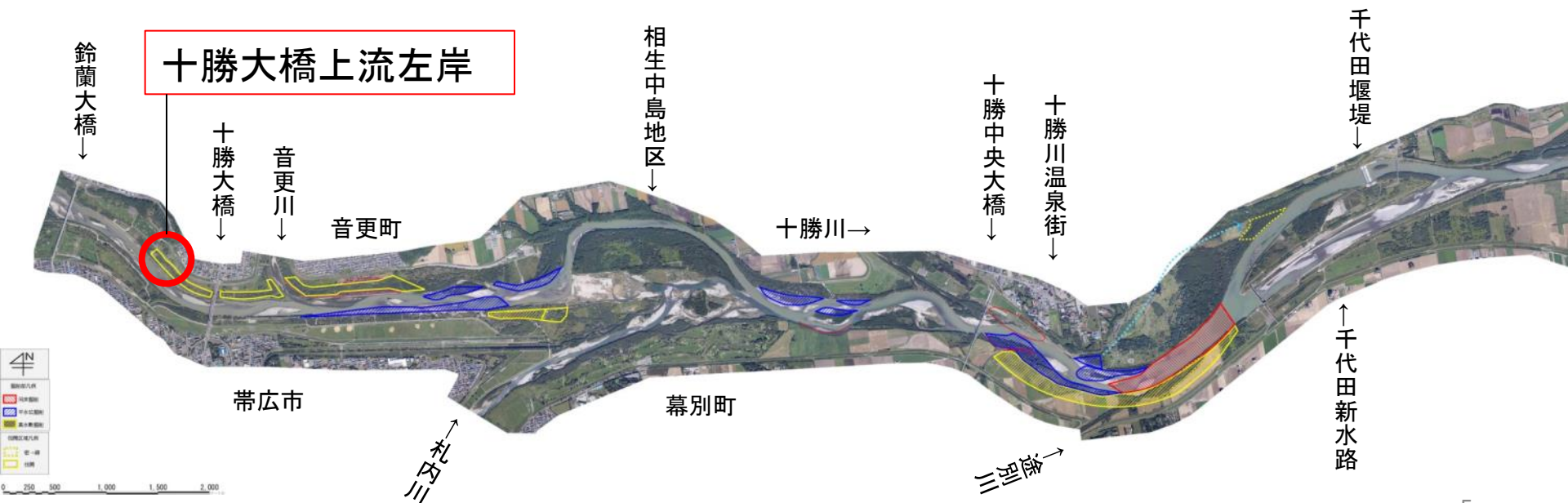
十勝毎日新聞
平成26年4月29日

北海道新聞
平成26年5月22日

た上で、環境整備の設計図をつくってもらうなどした。土木学会道支部は授賞理由で「次世代を担う地域の若者に河川の教育活動を実施している」ことを高く評価。同会議の藤堂事務局長は「今後も次の世代に引き継ぐべき川づくりをみんな考えていきたい」と話している。

2014.5.11 広葉樹若木(ハルニレ、カシワ等)の保全区への移植

実施内容	目的
広葉樹若木を河畔林保全区(10m幅)へ移植	ヤナギ類だけではなく、多様な樹種で構成された河畔林の成立を目的として、移植を行った



2014.5.11 広葉樹若木(ハルニレ、カシワ等)の保全区への移植

作業前作業確認



移植作業



移植作業



移植されたオニグルミ



2014.8.29 移植後の様子

2014.8.29保全樹木帯(幅10m)状況



2014.8.29保全されたカシワ



2014.8.29保全されたハルニレ

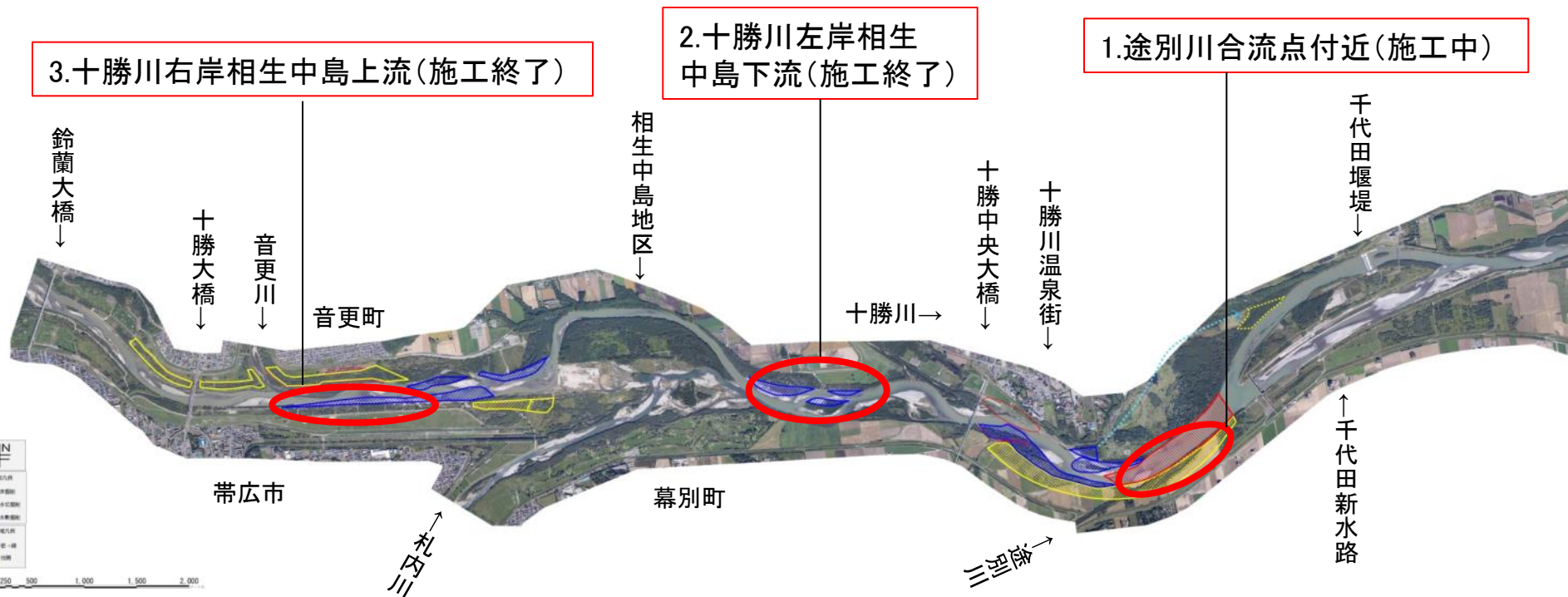


2014.8.29移植されたハルニレ



2014.5.15 十勝川中流部3カ所の現地見学

実施内容	目的
十勝川現地見学	<p>十勝川中流部川づくりWSにおける9論点箇所の内、3カ所の現地見学を行い、工事がWSの基本方針に沿っているかを確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.十勝川右岸途別川合流点付近工事箇所(施工中) 2.十勝川左岸相生中島下流(施工終了確認) 3.十勝川右岸相生中島上流(施工終了)



2014.5.15 十勝川中流部3カ所の現地見学

1.十勝川右岸途別川合流点付近工事箇所(施工中)見学



2.十勝川左岸相生中島下流(施工終了)確認



3.十勝川右岸相生中島上流(施工終了)確認

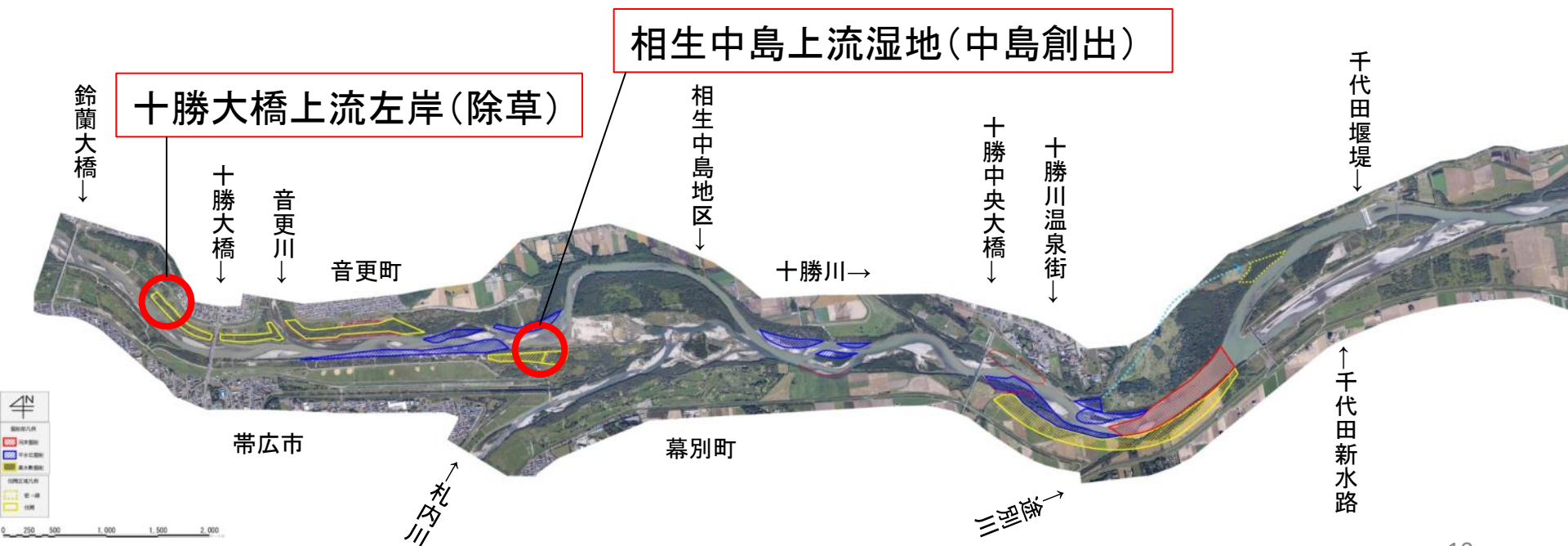


見学終了後に、十勝川相生中島上流湿地箇所清掃活動実施



2014.6.7 十勝川相生中島上流湿地での中島創出と外来種除草

実施内容	目的
湿地への中島設置	多様な魚類・植物の生息・生育促進を目的として、NPO法人十勝多自然ネットと当会議と協働で湿地に中島を造成
外来植物種除草	オオアワダチソウは周辺の他の植物の生育を抑制する事があることから、在来草本の生育を促すことを目的に、オオアワダチソウを除草



2014.6.7 十勝川相生中島上流湿地での中島創出と外来種除草

NPO十勝多自然ネットとの協働での湿地への中島設置



設置した中島(撮影: H260731)



オオアワダチソウ除草

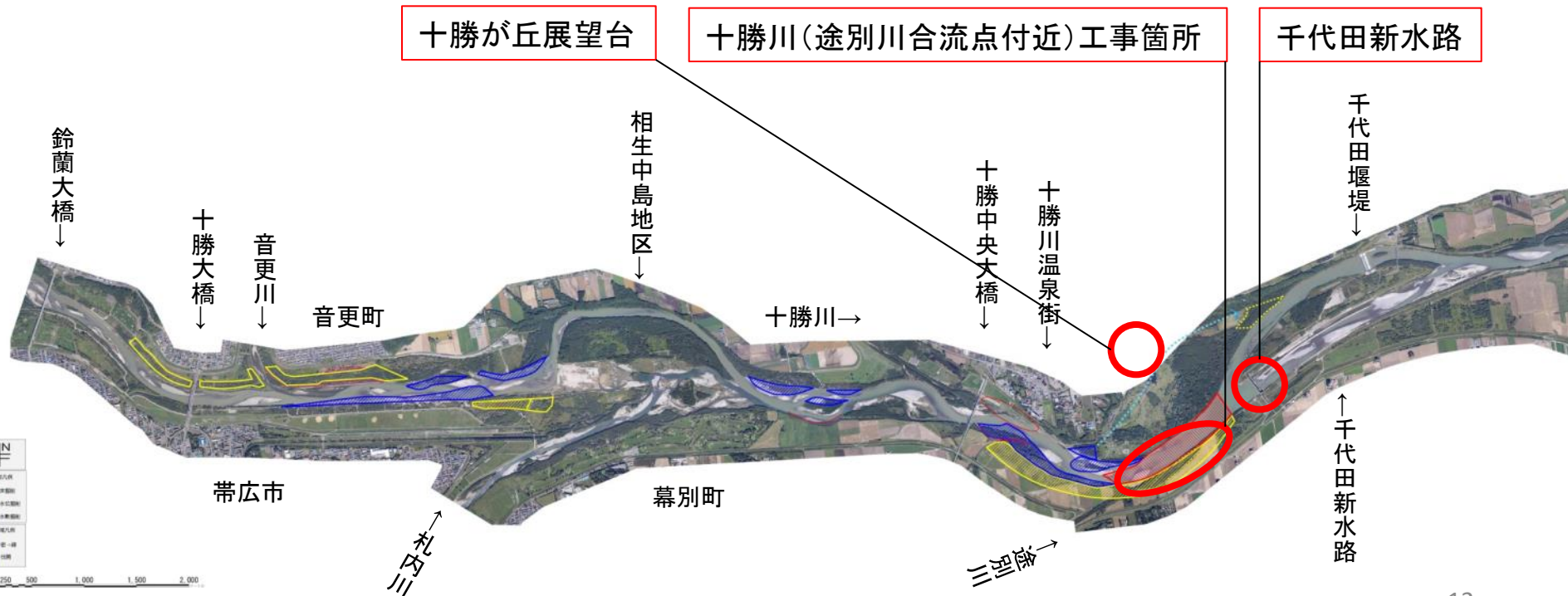


除草されたオオアワダチソウ



2014.6.12・16 工業高校2・3年生 十勝川現地見学会

実施内容	目的
<p>現地見学会 6/12: 工業2年生 6/16: 工業3年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝川への理解を深めることを目的に見学 ・十勝川(途別川合流点付近)工事箇所における、工事後の草地復元についての考えを促すことを目的に見学 <p>2年生行程: 十勝川(途別川合流点付近)工事箇所→千代田新水路 3年生行程: 十勝が丘展望台→千代田新水路→十勝川(途別川合流点付近)工事箇所</p>



2014.6.12・16 工業高校2・3年生 十勝川現地見学会

H260612工業2年生 十勝川途別川合流点水域周辺見学



H260612工業2年生 十勝川途別川合流点工事箇所付近見学



H260616工業3年生 十勝が丘展望台より十勝川を見学

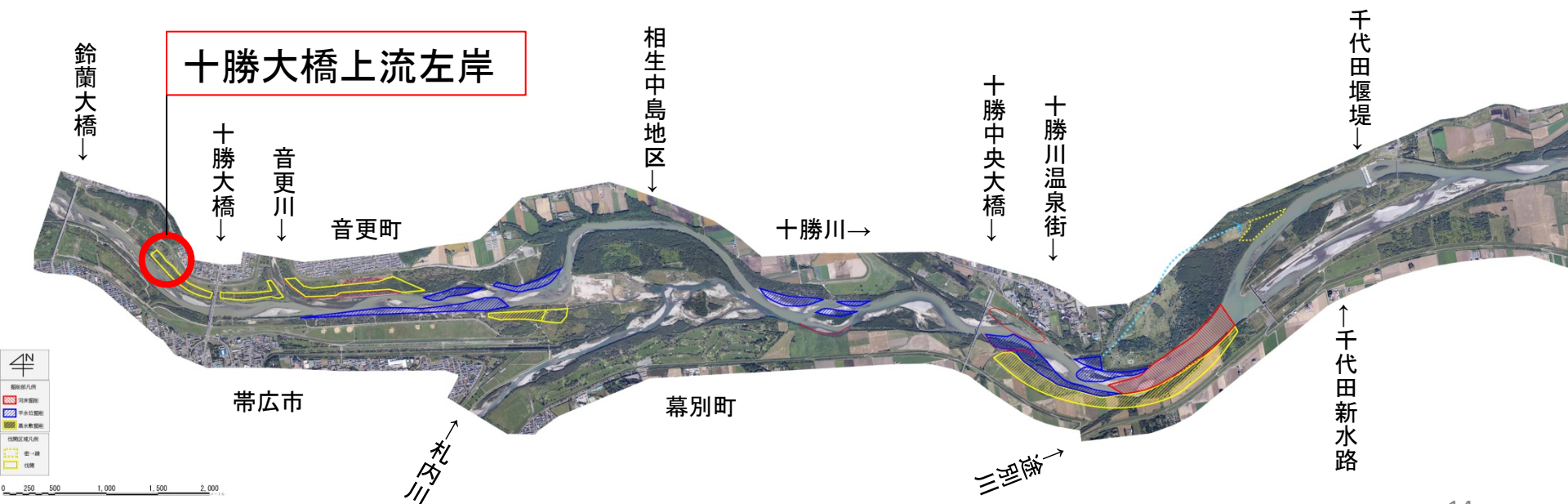


H260616工業3年生 十勝川途別川合流点工事箇所付近見学



2014.6.21 農業高校生 現地測量と外来種駆除作業

実施内容	目的
<p>現地測量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが草地復元についてアイデアを出した現場において、自ら測量作業に参加し、川づくりへの参加意識を促す事を目的に実施 ・同会議の技術者メンバーと共に現地測量を行うことで、専門技術の学習を促す
<p>外来植物種 除草</p>	<p>在来植物種の生育を促すと共に除草作業に参加した農業高校生へ、外来植物種の問題についての理解を促す</p>



2014.6.21 農業高校生 現地測量と外来種駆除作業

作業前作業確認



農業高校生による現地測量作業



同会議メンバーと協働で測量を行う農業高校生



測量作業後のオオアワダチソウ除草作業



北海道建設新聞

2014年(平成26年)6月24日(火曜日)

北海道建設新聞
平成26年6月24日

種まき準備で現地測量

十勝川中流部市民協働会議 草地復元へ高校生中心に



会員の指導を受けながら杭を打った

【帯広】十勝川中流部市民協働会議(代表・柳川久)は、21日、十勝大橋上流左岸

部の草地を復元するため、在来種の種まきの準備として現地を測量した。帯広農高の生徒20人が種をまく地点を測定。今後は彼らが中心となってヨシの移植や種まきに挑戦する。

同会議は地元建設業者やコンサルを含む、十勝川中流部の地域住民で構成。河川整備に関する市民意見を調整する場として、河川管理者の帯広開建と共に整備状況を点検し、今後の工事の在り方を協議している。

2013年度は若い世代の参加を広げるため、帯広農高と帯広工高の生徒がメンバー入りし、河岸草地復元計画の作成に関わった。十勝大橋上流左岸部の計画を担当した帯広農高は、14年度にホザキシモツケやホザキナナカマドなど、在来種の種をまき、ヨシを移植することになっている。

今回は、前段作業として現地で種をまく地点や園路の測量を実施。生徒

たちは、コンサルに務める会員のアドバイスを受けながら巻き尺で距離を測定。千鳥配置にするなど工夫を凝らしながら種をまく地点を決めて杭を打ち、GPSでその位置を記録した。

帯広農高農業土木工学科の測量授業は教科書が中心で、実習の機会は限られている。生徒たちの活動を指導する中村慎士教諭は「特に1年生は土木とは何なのか分からない子もいる。実践で理解できれば、進路の方向性が見えてくる」と、プロの測量士と作業できる機会を喜んでいった。

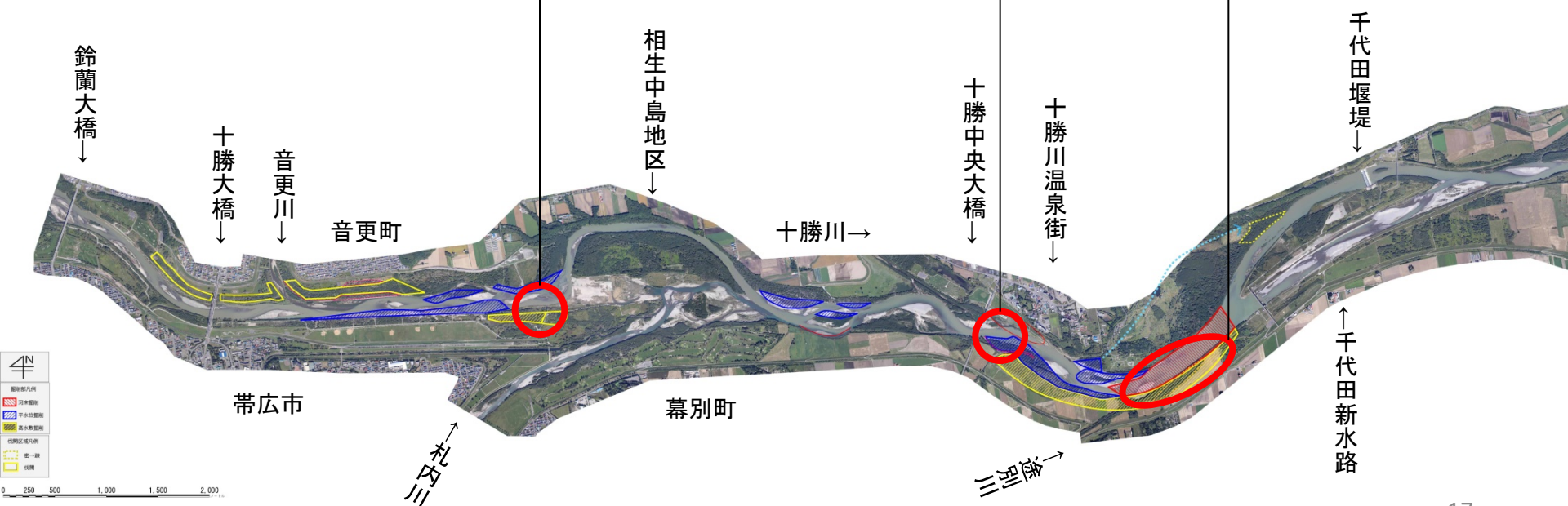
2014.7.8 十勝川中流部3カ所の現地見学

実施内容	目的
十勝川現地見学	<p>十勝川中流部川づくりWSにおける9論点箇所の内、3カ所の現地見学を行い、工事がWSの基本方針に沿っているかを確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.十勝川右岸相生中島上流湿地(施工中) 2.十勝川右岸途別川合流点付近(施工中) 3.十勝川右岸十勝中央大橋下流域(今後施工予定)

1.相生中島上流湿地

3.十勝中央大橋下流左岸

2.途別川合流点付近



2014.7.8 十勝川中流部3カ所の現地見学

十勝川相生中島上流湿地 掘削工事を見学



十勝川相生中島上流湿地 掘削工事を見学



3.十勝川途別川合流点付近工事見学



十勝中央大橋下流左岸(今後の検討箇所)見学



2014.7.25 農業高校 ヨシ移植

実施内容	目的
ヨシ移植 (ヨシ棹設置)	多様な生物が生息できる湿地環境創出を目的に、相生中島上流湿地にヨシ棹を設置しヨシ原復元を目指す
ヨシ移植 (十勝大橋上流左岸へ)	十勝大橋上流左岸に在来植生の生育促進を目的にヨシ移植作業を実施

十勝大橋上流左岸 相生中島上流湿地



2014.7.25 農業高校 ヨシ移植



2014.8.29 農業高校 ヨシ移植後の様子

2014.8.29 ヨシ棹設置箇所



2014.8.29 ヨシ棹(新芽を確認)



2014.8.20 十勝大橋上流左岸へ移植したヨシ(雨天後)



2014.8.29 十勝大橋上流左岸へ移植したヨシ



十勝毎日新聞

2014年(平成26年)7月27日(日曜日)

(20)

十勝毎日新聞
平成26年7月27日

十勝川にヨシ移植

高農帯 在来種で湿地環境整備 生徒農



市民協働会議のメンバー(左)と共にヨシを移植する生徒たち

【音更】帯広開発建設部が進める十勝川中流部の河川づくり事業の一環として、帯広農業高校(米田敏也校長)農業土木工学科の生徒11人らが25日、十勝大橋上流の同川左岸(音更町)の河川敷でヨシの移植作業を行った。

在来植生のヨシを植え群生化させることで、在来種の昆虫などもすみ着きやす

い湿地環境を整える狙い。この日は同事業に参画している「十勝川中流部市民協働会議」(代表・柳川久帯広畜産大教授)のメンバー13人も加わった。同協働会議メンバーたちが事前に十勝大橋から約5キロ下流の右岸(帯広市)にある同川相生中島地区の湿地(約3畝)でヨシ50株を採取して、それを移植用に使った。

移植地となった場所は、6月21日に同校生徒たちが測量を行いヨシを移植する間隔に印を付けていた。生徒たちは同協働会議メンバーと共に、スコップで深さ約30センチの穴を掘り、1株ずつ丁寧に植えていった。約1畝の移植地にはこぶし大の石が多くあり、生徒たちは穴掘り作業に苦戦した。全ての株を植え終わると川からくんできた水をヨシにかけて終了した。

作業に参加した3年生の梅木裕介君(17)は「実際に現場で作業ができたので良い経験になった。社会人になったときにきつと役に立つと思う。将来は緑がいっぱいのマチになってくれたらうれしい」と笑顔を見せていた。

この取り組みは、8月30日午後3時から、帯広市内のとかち館(西7南6)で開かれる報告会で発表される。(奈良竜也)

2014年(平成26年)7月31日(木曜日)

【帯広、音更】帯広農業高の生徒11人が、市民らで作る「十勝川中流部市民協働会議」が進める十勝川周辺の湿地保全の取り組みの一環で、十勝川周辺でヨシの移植作業を行った。

同会議は、大正時代以降に90%以上減った湿地を取

湿地保全へ ヨシを移植

帯農高生



り戻そうと、2012年5月に設立。帯広開発建設部

が10年7月から続けてきた十勝川中流部川づくり事業

を引き継いだ。ヨシを増やし、動植物の集まる生態系豊かな湿地を作ることを目指している。

作業は25日に

実施された。帯農高生は、十勝

スコップを使い、ヨシを植える帯農高生

川相生中島地区の湿地で、長さ90センチのヨシ10本を5センチ間隔で竹に画びょうで止め、水面に浮かべて固定した。音更町の十勝大橋上流部ではスコップで地面を掘り、ヨシ50株を植えた。うまくいけば約1年で根付くという。

2年の加藤星河君(16)は「ヨシが増えていくのが嬉しい。生物が集まる湿地になったらうれしい」と話していた。

(池田大地)

北海道新聞(夕刊)
平成26年7月31日

【帯広】十勝川中流部市民協働会議(代表・柳川久帯広畜産大教授)は25日、十勝大橋上流左岸部の草地復元に向けて、ヨシの育成実験や移植に

竹ざおに茎をくくり付け水際に並べた。取り組んだ。メンバーである帯広農高の生徒11人は、相生中島地区上流部

ヨシ育成実験に挑戦

十勝川中流部市民協働会議 草地復元目指して



の湿地でヨシ稈(かん)浸漬法による育成に挑戦した。

同会議は地元の建設業者やコンサルを含む、十勝川中流部の地域住民で構成。河川管理者の帯広開建と共に整備状況を点検し、今後の工事の在り方を協議している。

2014年度は、十勝大橋上流左岸部の草地復元計画の作成に関わった帯広農高の生徒が、現地での在来植物の種まきなどに取り組んでいる。今回は、相生中島地区

上流部の湿地からヨシ50株を移植したほか、この湿地でヨシの育成実験を実施。コンサルに務める

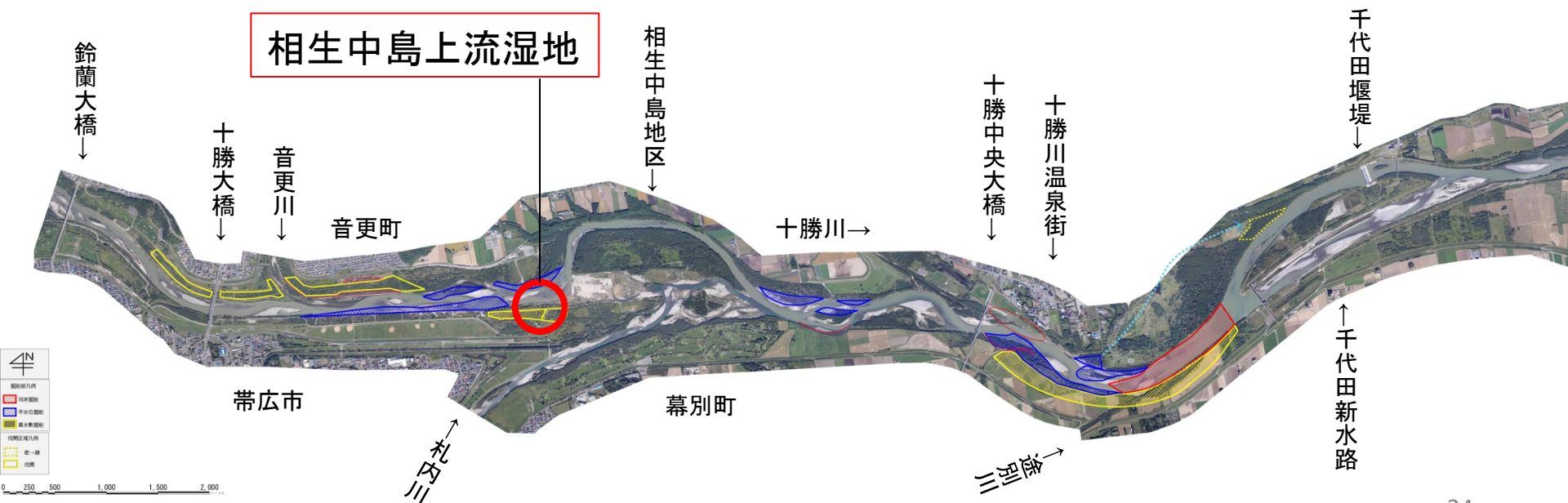
会員らが、生徒にヨシの茎を水面に浮かべ節部からの発根を促すヨシ稈浸漬法を指導した。

生徒たちはそれぞれ竹ざおに茎10株をピンで止めて水際に並べ、移動しないよう杭を打った。秋ごろには自然に群生しているヨシと同程度まで成長する見通。今後は、ホザキシモツケやホザキナナカマドなどの種まきも予定している。

北海道建設新聞
平成26年7月29日

2014.8.9 農業高校 湿地での魚類調査・水生生物生息環境整備

実施内容	目的
魚類・底生動物調査	平成24年より水域が確認された相生中島上流湿地において、魚類等生育状況の経年変化を確認することを目的に継続的な調査を実施
伐採樹木・玉石設置	魚類等への生息環境を目的として、「伐採樹木」や「玉石」を湿地へ設置



2014.8.9 農業高校 湿地での魚類調査・水生生物生息環境整備

魚類・底生動物採捕



採捕された魚類・底生動物(フクドジョウ、ウグイ、イトヨ等)



玉石設置



玉石遠景

